

<p>[科目名] 経済学基礎論 a (経営学科 1 年次・地域みらい学科2年次対象)</p>	<p>[単位数] 4 単位</p>	<p>[科目区分] 専門科目 基礎科目(必修科目)</p>
<p>[担当者] 権 克裕、河野秀孝 Kamba, Katsuhiko, Kawano, Hidetaka</p>	<p>[オフィス・アワー] 時間:授業中にアナウンスします。 場所: 権研究室、河野研究室</p>	<p>[授業の方法] 講義</p>
<p>[科目の概要] 経済学は、私たちの消費から生産、政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係しています。本科目は、これから学んでいく経済学がどのような学問かということをお学ばせる科目です。授業は、主に次の3つのパートから構成されています。</p> <p>(1) 経済学的な考え方:経済学は現実社会を理解し、その問題点の対処法を考える学問といえますが、その際、どのような視点で、どのような問題意識をもち、どのように論理を展開するのでしょうか。社会科学としての経済学の基本的な考え方を学びます。</p> <p>(2) ミクロ経済学:経済社会を構成する私たちが、何を、どれだけ購入するのか。そのためにどれだけ働き、生産を行うのか。そこに問題があるとすれば、どのように対処するのか。個々の消費者の行動と企業の行動、市場の効率性、市場の失敗と政府の役割について考えます。</p> <p>(3) マクロ経済学:失業や金融財政政策など、日本経済全体に関わる問題を理解するためには、個々の主体の行動だけでなく、経済全体を俯瞰する巨視的な視点も必要となります。そのために必要な考え方、知識を身につけます。</p> <p>なお、前半 15 回を河野が、後半 15 回を権が担当します。</p>		
<p>【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか】</p> <p>経済学基礎論は、今後 4 年間で学んでいく経済学のすべての科目の基礎となります。経済学にはミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済学、財政学、労働経済学、国際経済学、金融経済学など、さまざまな分野があり、それらの諸分野は 1 年生の秋学期以降に勉強します。本科目は、それぞれの分野がどのように関連しているのかを示すガイドラインとしての役割も果たします。本科目を通して、経済学の考え方に触れ、経済学に興味をもってほしいと思います。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>中間目標:経済学の基礎的な知識を身につける テキストでは経済学の基礎的な考え方として、十大原理というものを設定しています。まず、この原理を理解することが最初の目標となります。</p> <p>最終目標:経済学的な視点から物事を考える力を身につける 新聞で取り上げられるような様々な社会や経済の問題について、自分なりの問題意識で、経済学に則して考えることができるようになることが最終目標です。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <p>「黒板の字が小さくて見えにくい」、「声が小さい」等のコメントがありました。文字の大きさに注意し、板書するようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。</p>		
<p>[教科書] N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー入門経済学 第3版』東洋経済新報社、2019年。</p>		
<p>[指定図書] N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学I ミクロ編 第4版』東洋経済新報社、2019年 N.G.マンキュー著、足立英之他訳『マンキュー経済学II マクロ編 第4版』東洋経済新報社、2019年 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久、「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection」新版、有斐閣、2016年</p>		
<p>[参考書] J.E.スティグリッツ、C.E.ウォルシュ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学 第4版』東洋経済新報社、</p>		

2012年。

N. Gregory Mankiw (2021). *Principles of Economics, 9th Edition*. Boston: Cengage.

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末試験および小テスト(もしくは課題)の成績を用いて総合的に評価する予定です。

〔評価の基準及びスケール〕

評価	得点比率
A	80%~100%
B	70%~80%未満
C	60%~70%未満
D	50%~60%未満
F	50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

経済学に限りませんが、物事を理解するためには、関連する知識を単に収集するだけでなく、その土台となる基本的な考え方を身につけることも大切です。授業で説明することをただ暗記するのではなく、なぜそうなるのか、論理展開の経緯を大切にしてください。自分で考え、理解してはじめて、知識が自分のものとなり、財産となります。

講義は以下のスケジュールに沿って進めますが、授業の理解度によっては、スケジュールを変更することもあります。

〔実務経歴〕

河野 秀孝: 製造業での実務経験を活かし、私たちの生活への海外からの影響を、身近な事例と考えながら、日本を取り巻く国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになることを目的とした授業です

樺 克裕: 旧通産省での実務経験を活かし、消費から生産・政府の行動まで、身の回りのさまざまな出来事に密接に関係している経済学がどのような学問かを学ぶ授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 人々はどのように意思決定するのか 内 容: 経済学の十大原理(ミクロ的視点) 教科書 1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人々はどのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているのか 内 容: 経済学の十大原理(市場の機能と政府の役割、マクロ的視点) 教科書 1章
第3回	テーマ(何を学ぶか): 経済学者はどのように考えるのか 内 容: 科学としての経済学、経済モデル 教科書 2章
第4回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容: 生産可能性、特化と交易 教科書 3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする 内 容: 機会費用、比較優位 教科書 3章

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における買い手の行動 内 容: 市場、需要曲線、個人の需要と市場の需要、需要曲線のシフト</p> <p>教科書 4章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):完全競争市場における売り手の行動 内 容:供給曲線、個人の供給と市場の供給、供給曲線のシフト</p> <p>教科書 4章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):需要と供給を組み合わせる 内 容:均衡、需要・供給のシフトと均衡の変化、価格による資源配分</p> <p>教科書 4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格規制が市場に及ぼす影響 内 容:価格の上限・下限は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):価格変化に対して需要量(供給量)はどれだけ反応するだろうか 内 容: 需要(供給)の価格弾力性とその決定要因、需要(供給)の価格弾力性の計算</p> <p>教科書 5章付論</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):課税が市場に及ぼす影響 内 容:売り手と買い手に対する課税は市場の成果にどのような影響を及ぼすか</p> <p>教科書 5章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):買い手が市場に参加することで得られる便益 内 容:支払許容額、需要曲線を用いた消費者余剰の測定</p> <p>教科書 6章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):売り手が市場に参加することで得られる便益 内 容:費用と売る意志、供給曲線を用いた生産者余剰の測定</p> <p>教科書 6章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の効率性と市場の失敗 内 容:市場の効率性、市場の失敗と政府の役割</p> <p>教科書 6章、7章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):市場の効率性と市場の失敗 内 容:第14回講義の続き</p> <p>教科書 6章、7章</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(1) 内 容:小テストおよびマクロ経済パートのイントロダクション</p> <p>教科書 8章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(2) 内 容:GDP の測定</p> <p>教科書 8章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):経済全体の豊かさの測定(3) 内 容:名目 GDP と実質 GDP の違い</p> <p>教科書 8章</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(1)</p> <p>内 容:GDP デフレーターと消費者物価指数</p> <p>教科書 9章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):物価水準の変動について(2)</p> <p>内 容:インフレーションの影響に対する経済変数の補正</p> <p>教科書 9章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(1)</p> <p>内 容:生産性の役割</p> <p>教科書 10章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):国家間における生活水準の大きな違いの原因(2)</p> <p>内 容:生産性を決定する諸要因</p> <p>教科書 10章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):失業問題について</p> <p>内 容:失業率の測定、失業の諸要因</p> <p>教科書 10章(付論)</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(1)</p> <p>内 容:金融システムを構成する各種制度</p> <p>教科書 11章・11章(付論1)</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(2)</p> <p>内 容:貯蓄と投資の関係</p> <p>教科書 11章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):貯蓄、投資と金融システムについて(3)</p> <p>内 容:金融市場における資金の需給均衡</p> <p>教科書 11章(付論2)</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(1)</p> <p>内 容:財と資本の国際フロー</p> <p>教科書 13章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(2)</p> <p>内 容:実質為替相場と名目為替相場</p> <p>教科書 13章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):開放マクロ経済学の基礎概念について(3)</p> <p>内 容:購買力平価</p> <p>教科書 13章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:第16回～第29回までのまとめと理解の確認</p>
試験	<p>期末試験を行う</p>